

ほほえみ 第76号



時間が過ぎるのは、あっという間に感じますが、もう年度末です。3月は門出の季節でもあります。この度、平出先生が当科での研修を終えられ、東北大学・大学院に進学されるため異動されます。当院で初期研修を始められてから3年間、地道に研修を重ねてこられました。先生の能力に見合った活躍の場が提供できたのか不安なところもありますが、東北大学に戻って、今後ますます研鑽されんことを祈念しております。

自己と他者

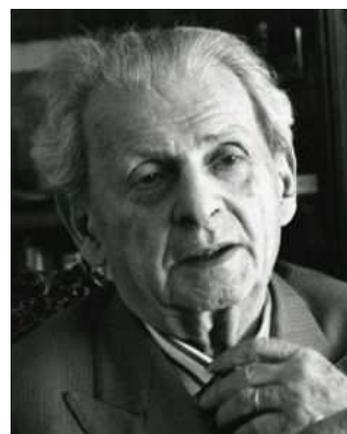
鶏が先か、卵が先かというのと似たような話になってしまうのですが、自己と他者というのは先行するのがどちらか、優先するのがどちらかという意味で、非常に哲学的な問題です。自己に関しては、自我という言葉も使われますね。人間は、たまたま、一人でいることはあっても、一人で生存していくことは困難な生物ですし、逆にそのような生き方には人間らしさも付随してこないと思います。結局、人間は、自己と他者の揃った世界で生きていくこととなります。

自己の方が、「我思う、故に、我あり」という言葉からわかるように、存在としては確かに感じられるのですが、ここを起点にしていくと、いきおい攻撃的、暴力的な思考パターンになりやすいと思います。自己を確認する、意志を実現することは、往々にしてそれに従わせるという言動と結びつきやすいからでしょう。ドイツにH氏という自己の存在を深く考察した哲学者がいて、哲学は素晴らしいのですが、人格は哲学に届かなかつたと言われています。だからという訳ではありませんが、他者を信じず自己を実現しようとなると、阿修羅の道を歩んでいくしかありません。ここに手綱をとるには、自己を監視し抑制すること、すなわち「慎独」が重要になります。自己と慎独が、嚴重に結びつかざるを得ないことを見ると、現代の哲学も古代の哲学と行ったり来たりですね。

一方、他者を考えるとき、自己との共通性、交わりの最も少ない存在が、典型的な他者になるという考え方があって、それは何かというと、例えば神なのですね。このような、究極の議論では、人間同士の他人では、他人といえども、所詮、人間同士ですから、神よりは自分に近い存在となります。すなわち究極の他者は神である。この構図では、自分がいるから神がいるというのはあまりに不遜な感じで、神がいるから自分がある・・・でしょうね。他者の方が、自己に先立つことになるのは、一見、直観しにくいのですが、この考え方も成り立つと思われれます。

自己と他者の問題は、本当に難しい。でも、鶏が先か、卵が先かという議論とは違って、空虚な議論ではありません。人間を、自己派と他者派に分けることもできるかもしれませんが。どちらの生き方が望ましいのかを考えることこそ、哲学と言えられると思われれます。否、真偽ではなく望ましさなのなら、倫理なのでしょう。

この他者の考え方は飛びぬけており、奥が深いのですが、エマニュエル・レヴィナスの書いたものをちょっと読んでみて感じたのですね(タルムード四講話)。彼の著作は難解らしいので、気長にかじってみるしかないようです。



エマニュエル・レヴィナス

4月からの診療体制

現在、がん化学療法科は医師二名の診療体制ですが、4月以降、常勤医が一名の体制となります。外来に関しては、毎週火曜日に、東北大学・腫瘍内科から平出先生が、東北医科薬科大学・腫瘍内科から工藤千枝子先生に交代で診療応援をいただきます。入院に対しては、消化器センターの先生方と協力しながらの体制となりますが、全体に、がん化学療法科のカバーする業務の見直しが必要となります。

がん化学療法科は主として、外来を中心の体制となりますが、経過観察や緩和医療のような際には、関連する診療科(主に、消化器外科、消化器内科)で対応していただくことが多くなるものと思われます。外来に関しても、待ち時間が長くなる等の影響も出てくるものと思われます。当科で治療を受けていただいている方々には、以上のような状況により、ご不便をお掛けすることも多く、誠に申し訳ありません。

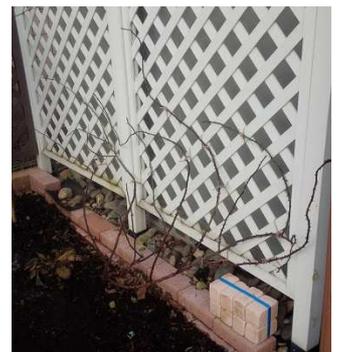
常勤医が減少することによる止むを得ない対応であることをご理解いただきたく、ご報告並びにお願いを申し上げます。

つるバラの誘引

昨年から、つるバラを何本か栽培しています。冬の間、前年に伸びた枝を剪定し誘引しなければなりません。バラ栽培の本を参考にしながら剪定・誘引するのですが、思ったより時間のかかるものでした。ご存知の通り、鋭い棘のある植物なので、絡まりあった枝をほどいて、分類するのだけでも一苦労でしたが、一年目でこんな感じなので、二年目以降はもっと大変な気がします。



昨年のリパブリック



リパブリック・ド・モンマルトルの誘引

なんとか、それらしくはなりましたが、春になって花が咲くかどうか心配です。昨年、植えた時よりは育っているので、花数が増えることを期待しています。昨年は一輪だけ咲かせた、ピエール・ド・ロンサールも新梢が3本は伸びましたし、一面とは言わないまでも、10輪くらいは咲いてほしいと思います。

MEMO

3月のがん化学療法科の予定

3月1日	診療応援(大堀先生)
3月10日	診療応援(福田先生)
3月14日	診療応援(西條先生)
3月20日	春分の日
3月24日	柴田教授外来
3月28日	診療応援(伊藤先生)

